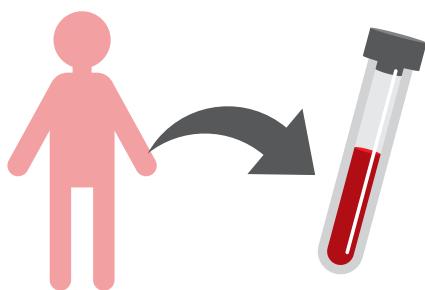


リキッドバイオプシー検査とは？

血液等の体液を用いて、診断や治療法の選択や治療効果の予測等を行う検査を、リキッドバイオプシーといいます。リキッドバイオプシーでは、内視鏡や針によりがんを採取する従来の組織生検にくらべて体に負担をかけることなく、くり返し検査を行うことができます。また、組織生検では採取したがんの一部の情報しか得られないのに対し、リキッドバイオプシーでは体全体に存在するがんの情報を把握することができることも特長のひとつです。

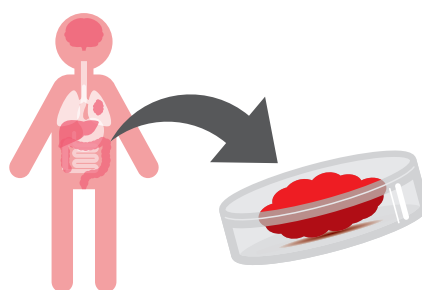
リキッドバイオプシー



血液などの**体液**の情報から、病気の有無や性質を調べること

- 患者様の負担が小さい
- 病変部位が採取できない場合でも実施できる
- 適切なタイミングで、くり返し検査できる

生検



手術や内視鏡、針などによって**組織**の一部を採取し、顕微鏡で病変について調べること

- 患者様の負担が大きい
- 病変部位によっては採取が難しい
- 病状によって実施できないこともある

— リキッドバイオプシー検査でわかること —

？ がんの遺伝子異常が検出されたか

▶ がんの早期発見につながります。

？ がんの遺伝子異常がどのくらい検出されたか（検出頻度）

▶ 体の中にあるがんの指標になります。
定期的に検査を行うことで、がんの治療効果やがんの進行をモニタリングすることができます。

？ どんな遺伝子の異常があったか

▶ 異常のタイプによって、適切な治療薬が見つかることがあります。

費用について

IMS Me-Life クリニック 池袋にて販売

胸部CT検査・脳検査もコース込み！！

プレミアムドックコース
【人間ドック+リキッドバイオプシー検査】

※人間ドックと併用のご受診になります。

※ご加入の健康保険組合の補助がある場合はご負担額が異なります。

¥550,000 (税込) ~

検査の流れ

01 検査予約

検査予約はお電話のみになります。



02 検査説明及び検査同意確認

検査の流れや重要事項を検査スタッフが詳しく説明いたします。



03 採血

通常の採血に追加で専用容器3本の採取が必要になります。



04 結果分析

検査センター（CPM社）にて解析検査



05 医師による結果説明

* 結果ご報告まで約2~3週間かかります。

* 検査結果より精密検査等が必要と医師が判断した場合は

IMS（イムス）グループ病院等への受診紹介をさせていただきます。



IMS(イムス)グループ 医療法人社団 明秀会

IMS Me-Life クリニック 池袋



略歴

1977年 大阪大学 医学部卒業
1987年 ユタ大学 人類遺伝学教室助教授
1989年 財団法人 癌研究会癌研究所 生化学部部長
1994年 東京大学医科学研究所教授
1995年 東京大学医科学研究所 ヒトゲノム解析センター長
2005年 理化学研究所ゲノム医科学研究所センター長（併任）
2011年 内閣官房参与・内閣官房医療イノベーション推進室長
2012年 シカゴ大学 医学部教授 個別化医療センター副センター長
2018年 内閣府「AIホスピタル」プログラムディレクター
2018年 公益財団法人がん研究会 CPMセンター所長
2022年 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 理事長
東京大学名誉教授，シカゴ大学名誉教授，
中国医科大学名誉教授，ハルビン医科大学名誉教授

主な専門分野

遺伝医学，がんゲノム研究，抗がん剤開発，免疫ゲノム学

主な学会活動

日本癌学会（2014年会長），日本人類遺伝学会（元理事長），
米国癌学会，がん分子標的治療学会（元理事長）

受賞歴

2000年慶應医学賞，2003年紫綬褒章，
2020年クワイバイトアナリティクス引用栄誉賞，2021年文化功労者

中村祐輔医師 ご挨拶

～ 簡単な検査で早期がんを発見できる時代に ～

いま、「がんゲノム医療」が進展して、医療革命とも言うべき急速な変化が起こっています。ゲノムとは遺伝子情報のことで、それを調べ、がんの診療に役立てることが始まっています。がんの治癒率を上げるためには、早期発見が不可欠です。がんの10年生存率のデータを見ると、「手術ができる早期に発見できれば治癒率が高い」ことが明らかです。いつでもどこでも誰でもが、簡便にがん診断を受ける方法として期待されているのが「リキッドバイオプシー」です。リキッドバイオプシーとは、血液や尿などの体液を用いて、診断や治療効果予測を行う技術です。患者さん、あるいは、検診を受ける人の負担も軽く、繰り返し検査できる利点があります。血液からがん細胞の遺伝子情報を得ることができるため、患者さんごとの違いに応じた適切な治療につながるがんゲノム医療につながります。また、血液による「リキッドバイオプシー」では、血中に混入したがん細胞の遺伝子情報を精度高く、検出できるため、がんがあるかどうかを調べることができ、早期がんの診断につながります。また、画像診断では見つけられないようながんの転移再発診断も可能になります。

依然として、日本でのがんの検診受診率は高くありませんが、こうした簡便な検査を誰もが受けられるようになれば、今後、がん検診の在り方も大きく変わっていくと考えています。